

## 第3章まちづくりコンセプト

### 3-1 まちづくりをデザインすること

形体意匠といった形あるもののデザインにとどまらず、市民活動やホスピタリティーといった目に見えないものも含めて、第2章に整理されたまちづくりの方向性に向けて多面的・複合的にマネジメントすることを「まちづくりをデザインする」と称し、飯山の特色ある素材を活かしながら、一続きの「物語」で展開され「感動」を与えるものを目指します。

#### 『驚き・感動』を与えるまちづくりデザイン

- ・ まちの物語 ⇒ テーマに沿った素材が連続することによって物語がつくられ、まちに深みを加えます。
- ・ センスの良いデザイン ⇒ デザイン性（質）に優れた“経済活動（商業）”“市民活動（イベント）”や“まち並み修景（ハード）”を展開します。

### 3-2 まちづくりの競争戦略ストーリー

都心から近い自然に囲まれた当市の特徴を活かして、他にはないマネのできない素材の組み合わせと、筋が良く展開性や発展性のあるシナリオで“五感を目覚めさせるまち”を目指します。

まちなかでは、飯山城や城下町・寺町など歴史的資源を近景として、遠景に千曲川や関田山脈・三国山脈などの周辺の自然資源を取り込み、歴史と自然のマッチングを図るなどまちなかの風情向上と心身のリフレッシュを推進します。また広域的な展開として、「自然と健康・スポーツ」「自然と芸術活動」など連続性も持たせます。

#### 個性ある素材を物語で連ね『五感』を刺激する。

- ・ 歴史資源（近景）⇒ 飯山城・城下町・寺町から感じられるまちの歴史と深み。
- ・ 自然景観（遠景）⇒ 四季が織りなす気候風土・周辺の山河や植物の演出。（借景）
- ・ もてなし（交流・体験）⇒ 市民と来訪者のふれあい。暖かい人情からの交流。
- ・ 食（郷土料理・食材）⇒ 飯山でしか体感できない味。
- ・ 感動できるシナリオ ⇒ まちの風情を感じる物語づくり。

### 3-3 まちづくりコンセプト

“飯山まちなか”は、飯山城築城に始まり城下町が形成された歴史的背景や、四季が明快であり恵まれた自然環境の中で人々が共生している気候風土文化に特徴があります。これら“飯山らしさ”を十分に発揮できるまちづくりを展開するコンセプトを以下に示します。

#### ■コンセプト■

## 歴史と自然に彩られたふるさと飯山まちづくり

#### (1) まちづくりを進めるデザインの基本

飯山のもつ歴史と四季豊かな自然を活用し、市民の活力を発揮し来訪者が憩え、楽しめる場を創出します。

#### (2) 来訪者を意識した飯山のイメージデザインの構築

歴史風土・既存建物・自然など飯山にあるオリジナルな素材を活かした、来訪者に感動を与えるまちのデザインを考えます。

そのためにも、市民が毎日を快適に過ごせるようなまちづくりを進めます。

#### (3) 感動を与える飯山のまち

☞ふるさとを思わせる「ほっとした安らぎの空間」、「四季の鮮やかさを感じる植栽空間（庭）」を演出します。

☞「ゆっくりとした時の流れ」に身をゆだね、飯山の歴史巡り・散策を楽しむことができます。

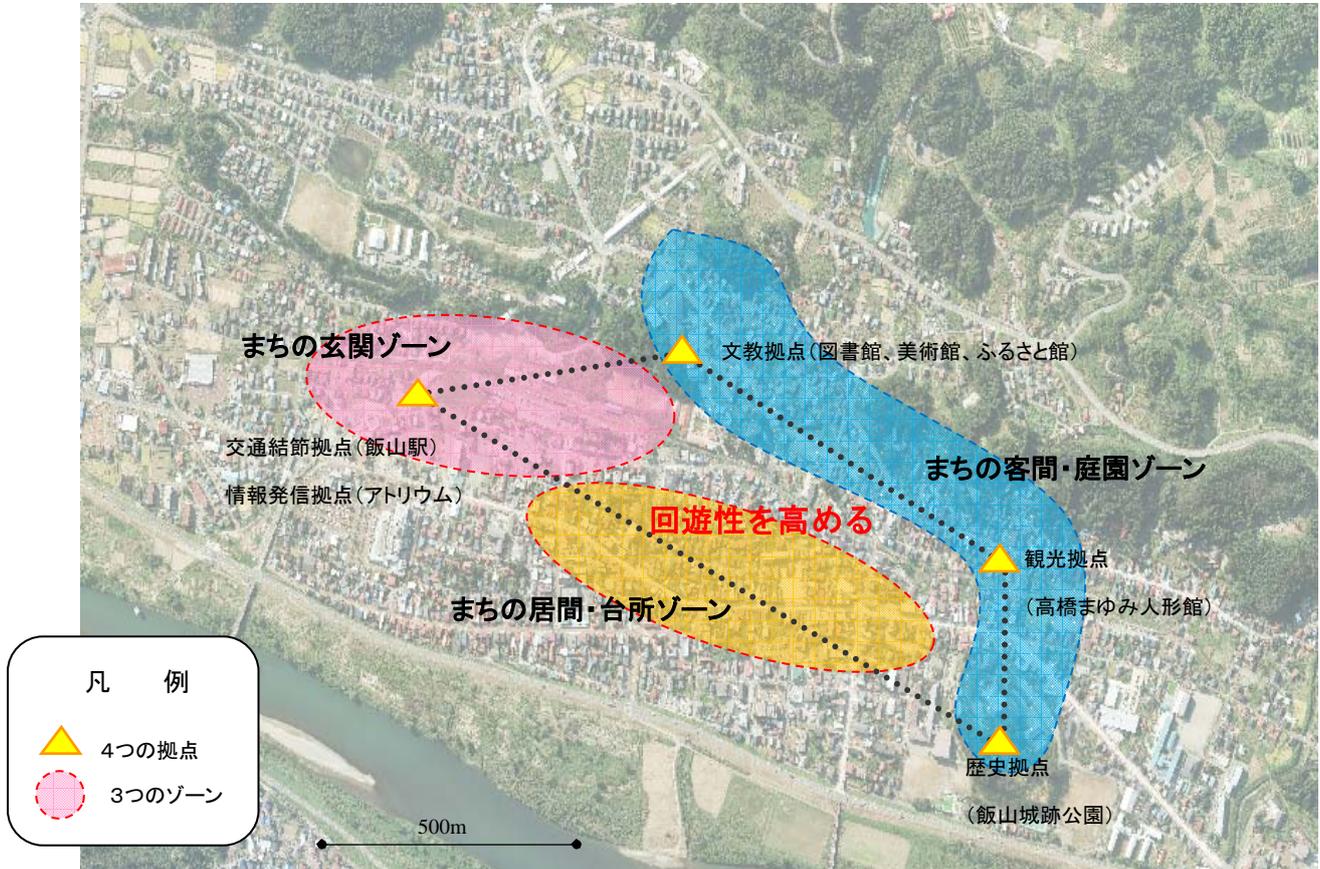
☞新鮮な農産物でつくる食の感動によるコミュニケーションをつくります。

☞まち歩きが楽しくなる食やマルシェ（市場）、伝統産業や芸術・文化をめぐる界隈性のある連続的な賑わいの場を創出します。

#### (4) まちづくりの展開

回遊性のあるまちを推進するため、まちなかの拠点を効果的に連動させ、ゾーン毎の特徴を活かしたまちづくりを推進します。

推進にあたっては、まちの魅力向上を図るプロジェクト事業を創設し、着実にまちづくりを進めます。



#### ■ 3つのゾーン設定

地域の特徴を明確にするためにまちなかをゾーンニングします。

##### ・まちの玄関ゾーン

北信州の玄関口として、自然豊かな地域イメージを創出するエリアとして、北陸新幹線飯山駅周辺および現在の飯山駅界限を中心とするまちの玄関(顔)としてのゾーンを指します。

##### ・まちの客間・庭園ゾーン

飯山城跡公園や正受庵・寺社が点在しており、歴史と文化・自然といった飯山らしさを醸し出せるゾーンを指します。

##### ・まちの居間・台所ゾーン

<sup>いち</sup>市や酒(食)場・宿場として、まちなかの商業が集積した地域を指し、市民の生活の場であり来訪者と交わるゾーンを指します。

## ■ 4つの拠点

回遊性を高めるため拠点を活かしたまちづくりを推進します。

### ・交通結節拠点、観光情報拠点

北陸新幹線飯山駅開業にあわせて、在来線駅移設や交通広場整備・駐車場整備などの交通結節強の強化を図ります。また駅にはアトリウムを合築し地域観光の情報発信拠点として観光案内機能の強化も図ります。



### ・文教拠点

図書館や美術館、ふるさと館とった地域の文化芸術にふれる事のできる施設が集積しており、子どもから高齢者まで、また来訪者にも飯山の良さを知ってもらうための場所となっています。またこの周辺には平成27年春完成予定の(仮称)飯山ぷらざ(多機能ホール)の建設も予定されており、各施設間の連携を強化し拠点としての魅力向上を図ります。



### ・観光拠点

寺めぐりなどで来訪者を迎えてきた愛宕寺町界隈に平成22年春「高橋まゆみ人形館」が開館しました。全国各地より日々多くの来館者が訪れており、まちなかの新たな観光スポットとなっています。今後は地域経済の活性化のためのまちづくりを展開します。



### ・歴史拠点

上杉謙信築城450年(平成27年)を迎える飯山城は、飯山のまちづくりの礎いしづえとなっています。現在江戸末期の城郭復元に向けて整備計画を策定中であり市民の憩い学べる場として、また来訪者からも魅力ある城郭となるよう期待がもたれます。平成27年には市民会館を撤去し城郭整備も本格化するとともに、まちのシンボルとして年間を通じた活用を図ります。

